

明治天皇伏見桃山陵

明治天皇は 1852 年 11 月 3 日に生まれ、15 歳で皇位を継承した。彼は、産業、社会、教育、政治、軍事の改革を積極的に奨励することにより、近代日本の創造に貢献した功績を持つ。彼は、200 年以上もの間、武家政権の下でほぼ完全に孤立していた日本と外界との関わりを促進した。このような主要な歴史的人物にとっての最後の休息場所は静かで控えめである。日本の 122 代天皇の御陵は、将軍豊臣秀吉（1537～1598）の伏見城の廃墟の上に建てられ、心静かに瞑想できる平和な場所にある。

ほとんどの天皇の御陵は純粹に象徴的なものであるが、明治天皇の御陵は天皇の遺骨が実際に埋葬されているという点で珍しい。日本の天皇は仏教の伝統に従い、天武天皇（?-686）死後の以来、火葬されてきたが、明治天皇の新しい政策の促進は、彼の死の儀式にまで及んだ。御陵自体はたくさんの鳥居の後ろにある。2 段式の埋葬塚は、底が正方形、上部が円形で、大きな岩となる力があると言われる小さな神聖な石であるさざれ石で覆われている。この石は、日本の国歌「君が代」で適切に言及されている。

御陵に通じる長さ 1 km の大通りは、天皇の死後早急につくられ、古い城の堀の輪郭に沿って曲がりくねっている。静かでゆったりとした散歩道だ。後に直接御陵に通じる 230 の石段を上る参道が別につくられ、地元の人々が現在エクササイズに使用している。